

(67)

氏名(生年月日)	ヤマザキトモコ 山崎友子
本籍	
学位の種類	博士(医学)
学位授与の番号	乙第1231号
学位授与の日付	平成3年12月20日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当(博士の学位論文提出者)
学位論文題目	うつ病と心身症の関係について —自験例に基づく臨床精神医学的検討—
論文審査委員	(主査)教授 田村 敦子 (副査)教授 小幡 裕, 内田 幸男

論文内容の要旨

目的

うつ病と心身症の関係については、うつ病者に心身症が比較的多いという臨床的な経験から両者の近縁性が指摘されているが、統計的な研究は少ない。著者は心身症のみられたうつ病者の経時的および統計的研究を行い、うつ病と心身症の関係を臨床精神医学的観点から検討した。

対象および方法

対象は、1987年4月から翌1988年3月までの1年間に武蔵野赤十字病院精神科を初診し、1カ月以上通院した外来患者のうち、従来の内因性うつ病に相当する「笠原・木村のうつ状態の分類」のI型と診断し、初発病相を観察しえた72例(男性36例, 女性36例)である。

以上の症例の初診から2年後の病歴を検討し、心身症の発現頻度、うつ病相および心身症の発症状況、うつ病相と心身症の時間的關係、抑うつ症状の特徴や重症度について調査した。さらに特徴的な症例を3例呈示し検討した。なお、心身症の診断は、1970年に発表された「心身症の治療指針」の疾患リストに基づき、他科で治療を受けたものとした。

結果

- 1) 対象としたうつ病者の44.4%に消化性潰瘍や喘息など13種類の心身症がみられた。
- 2) 消化性潰瘍は心身症全体の42.1%を占め、きわだって多かった。
- 3) 発症時の状況の問題は心身症の73.7%にみられたが、それはうつ病相発症時の状況の問題と一致して

いた。

4) うつ病と心身症の時間的關係をみると、心身症の89.5%がうつ病相発症以前に発症していた。そのなかで、心身症にひきつづきうつ病相のみられたものは76.5%であった。

5) 抑うつ症状の重症度は、心身症のみられたPSD(+)群が心身症のみられなかったPSD(-)群よりも軽度であった(1%危険率)。PSD(+)群では思考制止、罪責感、自殺念慮のような精神症状が少なく、とくに思考制止については、両群の間に有意差を認めた(5%危険率)。

考察

対象としたうつ病者の44.4%の高率に心身症が発症していたこと、および心身症とうつ病相の発症時の心理社会的状況が一致していたことは、うつ病と心身症の近縁性を示す所見と思われる。

うつ病者と心身症の時間的關係および抑うつ症状の重症度を検討した結果から、心身症の多くは前メランコリー状況における生体の身体的表現であり、うつ病に対する防衛機制としての役割を担うと考えた。この防衛機制が破綻することによってうつ病が発症しうることを精神医学的観点から考察した。

結語

心身症のみられたうつ病者の調査結果から、うつ病と心身症の近縁性を指摘し、心身症の多くは前メランコリー状況における生体の身体的表現であり、うつ病に対する防衛機制としての役割を持つと考察した。

論文審査の要旨

心身症とうつ病の近縁性は臨床的経験から周知の事実とされているが、統計的、経時的研究は極めて少ない。本論文は、うつ病患者を統計的、経時的に調査し、抑うつ症状の特徴を検討して、うつ病と心身症の近縁性を確認したものである。そしてさらに、心身症の多くは、うつ病発症以前のストレス状況下に発症していることを明らかにしたもので、うつ病に対する一種の防衛機制としての役割を担うことを示唆した学術上、臨床的価値のある論文である。

主論文公表誌

うつ病と心身症の関係について—自験例に基づく臨床精神医学的検討—
精神科治療学 第6巻 第8号
967-976頁（平成3年8月19日発行）

副論文公表誌

- 1) 経過から見た K. Schneider の一級症状と感情病症状との関係. 臨床精神医学 15 (12): 1997-2005 (1986) 堀川直史, 糸田川久美, 加茂登志子, 山崎友子, 坂元 薫, 古城慶子, 平沢伸一, 星野恵則
- 2) 診療科名「心療内科」と一総合病院精神科外来の実態—その疾病構造と治療関係—. 精神科治療学 4 (4): 499-508 (1989) 山崎友子, 堀川直史, 小川雅美, 永田俊彦
- 3) 残遺状態の見られた躁うつ病の1例. 臨床精神医学 18 (5): 673-679 (1989) 堀川直史, 坂元 薫, 山崎友子, 小川雅美, 永田俊彦
- 4) うつ病と神経症症状. 精神科治療学 5 (4): 523-531 (1990) 堀川直史, 山崎友子, 小川雅美, 永田俊彦
- 5) 人工透析と精神障害—その現代の問題—. 精神科治療学 5 (4): 505-514 (1990) 堀川直史, 小川雅美, 山崎友子, 永田俊彦
- 6) 腎不全・人工透析患者への向精神薬療法. 臨床精神医学 20 (3): 265-273 (1991) 堀川直史, 山崎友子, 小川雅美, 松田 治, 山田純生, 永田俊彦
- 7) 「舌がたり」のみられた人工透析患者2例. 臨床精神医学 20 (6): 771-778 (1991) 堀川直史, 小川雅美, 山崎友子, 加茂登志子, 永田俊彦
- 8) ある総合病院における他科入院患者の自殺について. 精神科治療学 6 (6): 695-703 (1991) 堀川直史, 山崎友子, 星真由美, 永田俊彦